

学校教育目標	「豊かに学び ともに未来をひらく 太尾の子」 【知】自ら学び、考え高め合い、生きてはたらく確かな学力を身につける太尾の子。 【徳】自己肯定感と思いやりの心をもとに、豊かな心を育み、よりよく行動できる太尾の子。 【体】健やかな体をつくり、健康で安全に生きる力を育む太尾の子。 【公】太尾のまちに学び、まちを愛し、まちに生きる太尾の子。 【開】太尾のまちの、横浜の、持続可能な社会の未来をひらく太尾の子。				
	創立 47 周年 児童生徒数: 737 人	学校長 館 雅之	副校長 横山 喜利穂	2 学期制	一般学級: 22 個別支援学級: 5
学校概要	主な関係校: 大綱中学校 神奈川県立港北高等学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	大綱中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<コミュニケーションする力> <探求する力> <挑戦する力>	大綱中学校 大綱小学校 大豆戸小学校	○主体的に学習に取り組む子ども ～学び合う～ ○あいさつができ、友達や地域との関わりを大切にできる子ども ～関わり合う～ ○自分の良さを活かしながら夢や目標に向かってチャレンジする子ども ～未来を創る～ ①主体的な学習を引き出す学習の在り方について探り、各教科で身につけさせたいことを小中で共有できるようにする。 ②学習の中で協働的な学びの場面をつくり、地域を活用したカリキュラム作りを設定したりする。 ③子どもたちによる主体的なあいさつ運動を全校展開していき、家庭、地域の啓発に努める。 ④授業参観や合同研修会などで児童生徒理解を深め、それぞれの発達段階において子どもたちのよさや成長を認め、9年間を通して自己有用感を育んでいくことを目指す。

中期取組目標	「ともに豊かに生きることを学ぶ学校」～Society5.0社会の「未来」に生きる子どもに必要な力を～ 「豊かに学び」 ・自らすすんで学び、人の話を心で聴き、学び合い、豊かな体験を通して学ぶ子ども 「ともに未来をひらく」 ・自尊感情をもち、思いやりの心を原点にして、曇りなく、ゆがみなく物事を見つめ続ける子ども ・地域の自然と社会、人に学び、地域を愛し、地域に生き、地域の持続可能な社会の未来をひらく子ども 「太尾の子」 ・太尾の豊かな自然、はるか仲間が築いたあわせと、太尾の町を愛し、みんなを助け生きていこうとする子ども ・横浜を愛し、積極的に社会にかかわり貢献しようとする子ども ・日本(地域)の伝統や文化を尊重しながら、国際社会の発展に貢献しようとする子ども
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	生きてはたらく知	①「学びのオーナーシップを子どもに」を具現化する授業づくりを推進する。 ②「分化、個性化、個別化」を視点にしたどの子どもも主体的に取り組む学びの構築する。 ③カリキュラムマネジメントを推進し、指導と評価の一体化をより図り、本校ならではの教育課程の創造する。
担当	確かな学力部会	
徳	豊かな心	①どの子どもにも自己肯定感と思いやりの心、規範意識を高めていく。 ②道徳科の学びを充実させ、様々な価値観を互いに理解し合ったり、受け入れたりすることの大切さを感じ取ることができるようにする。 ③新しい生活様式のもの、相手意識をもって関わることの大切さを感じ取ることができるようにする。
担当	豊かな心部会	
体	健やかな体	①心身共に健康的な体づくり、生活習慣向上に取り組む。 ②鶴見川を走る会、運動会などの体育的行事や集会等を通して、健康でたくましい体をつくる。 ③保健指導、食育を教科に関連して位置づけ、担任と養護教諭、栄養職員との連携で推進する。
担当	健やかな体部会	
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①特別活動を中心に人と関わる体験から学ぶことを重視する。 ②自分と人や物事との関係性を理解する中で、自分らしさを発揮しながらお互いのよさを認め合うようにする。 ③テーマや課題を自分で選択、決め、決め直してし行動し続け、役に立つ喜びを感じとれるようにする。
担当	確かな学力部会	
いじめへの対応		①教職員の対話を定期的に行い、意識向上、組織対応を推進する。 ②いじめ防止対策委員会の機能化を図り、認知、及び認知案件の経過観察、再発防止に努める。 ③全職員がスタンダードを基盤とした一貫した児童指導に努め、児童の規範意識を高める。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①教職員の対話を定期的に行い、研修、人材育成の場としていく。 ②主幹教諭を中心に、職員が組織的に課題解決する中で、学校運営力を育成する体制を再構築する。ていく組織運営を推進する。 ③タイムマネジメント意識をもち、業務計画をもとにした業務推進を図り、19時までには退勤できる働き方実践していく。
担当	主幹会	
特別支援教育 (インクルーシブ教育)		①違いがあることから始まる学びの構築を推進する。 ②特別支援教育支援員などを含めた校内支援体制を推進する。 ③個別の教育支援計画や個別の指導計画を本人や保護者の願いを元に作成し、一人ひとりのニーズに応じた支援に活用する。
担当	豊かな心部会	
地域連携と 安全・防災教育		①「ふるさと太尾構想」の理念のもとに、地域社会の再構築を図る。 ②学校運営協議会や教育支援委員会を中心に、地域、保護者の皆様の学校運営への参画を推進する。 ③地域、保護者、学校の持続可能な連携による、交通安全、防犯、防災教育を推進する。
担当	ふるさと太尾部会	
課外活動		①マーチングバンドの活動を保護者会・後援会と連携し、運営面の再構築を図る。 ②特別陸上クラブの活動は、目標をもって運動に取り組めるようにする。 ③様々な地域行事への学校職員による支援を均衡化し、参加できる体制を持続していく。
担当	主幹会	
a15		a25
担当		

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

「豊かに学び ともに未来をひらく 太尾の子」  
 【知】自ら学び、考え高め合い、生きてはたらく確かな学力を身につける太尾の子。  
 【徳】自己肯定感と思いやりの心をもとに、豊かな心を育み、よりよく行動できる太尾の子。  
 【体】健やかな体をつくり、健康で安全に生きる力を育む太尾の子。  
 【公】太尾のまちに学び、まちを愛し、まちに生きる太尾の子。  
 【関】太尾のまちの、横浜の、持続可能な社会の未来をひらく太尾の子。

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

〈コミュニケーションする力〉  
 〈探求する力〉  
 〈挑戦する力〉

#### 具体化した資質・能力

【個別支援級】  
 ・感じたことを言葉にする力  
 ・問題を理解する力  
 ・身近な事象に積極的に関わる態度  
 ・相手の思いを受け止めて聞く力  
 ・問題を発見する力  
 ・他者を理解する態度、自己を理解する姿勢

【1・2学年】  
 ・伝える内容を明確にする力  
 ・試行錯誤する力  
 ・試行するための言葉の力  
 ・伝え合うことで自分の考えを深化させる力  
 ・問題解決の過程を振り返る力  
 ・考えを出し合って新提案する力

【3・4学年】  
 ・伝える内容を明確にする力  
 ・試行錯誤する力  
 ・試行するための言葉の力

【5・6学年】  
 ・伝え合うことで自分の考えを深化させる力  
 ・問題解決の過程を振り返る力  
 ・考えを出し合って新提案する力

#### 中期取組目標

「ともに豊かに生きることを学ぶ学校」～Ssiety5.0社会の「未来」に生きる子どもに必要な力を～  
 「豊かに学び」  
 ・自らすすんで学び、人の話を心で聴き、学び合い、豊かな体験を通して学ぶ子ども  
 「ともに未来をひらく」  
 ・自尊心をもち、思いやりの心を原点にして、曇りなく、ゆがみなく物事を見つめ続ける子ども  
 ・地域の自然と社会、人に学び、地域を愛し、地域に生き、地域の持続可能な社会の未来をひらく子ども  
 「太尾の子」  
 ・太尾の豊かな自然、はるか仲間が築いたあわせと、太尾の町を愛し、みんなを助け生きていこうとする子ども  
 ・横浜を愛し、積極的に社会にかかわり貢献しようとする子ども  
 ・日本(地域)の伝統や文化を尊重しながら、国際社会の発展に貢献しようとする子ども

### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①「学びのオーナーシップを子どもに」を具現化する授業づくりを推進する。 ②「分化、個性化、個別化」を視念にしたどの子どもも主体的に取り組む学びの構築する。 ③カリキュラムマネジメントを推進し、指導と評価の一体化をより図り、本校ならではの教育課程の創造する。
担当	確かな学力部会

#### 学力向上に関わる本校の状況

【学力の概要と要因の分析】  
 学力はどの学年も、全教科平均を上回っている。各教科において、「基礎」「活用」の力が共に市平均を上回っている。  
 現5、6年生の結果から捉えた傾向(グラフは現6年生の算数)

6年生国語においては、C、D層の割合の変化は少なく、A、B層で7割以上を占めている。算数については、学年が上がるとつれて、C、D層の割合が増える傾向にある。5年生については、算数のC、D層の増加は認められない。理科、社会については、2学年共にA、B層がほぼ6割を占めている。算数については、学年が上がると習熟度に差が出ているため、個に応じたきめ細やかな指導が必要になる。

【生活意識と学力層のクロス集計による分析】

「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問と学力層をクロス集計した結果、学力層Aでは、81%が、D層では、68%が肯定的に回答した。学力が高いほど、話し合いの活動に積極的に参加し、考えを深めたり、広げたりしていることが分かる。どの児童も積極的に話し合う活動に参加し、学力の向上につなげていけるように、グループ学習などの支援の手立てを工夫していく必要がある。

#### 今年度の目標

すべての子どもたちが、伝え合う活動を通して主体的に学ぶ授業を創造し、自ら考えを深めていく力を育てる。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

【個別支援級】  
 ・個別的教育支援計画、指導計画に基づき、個に応じた学習や小グループでの学習を行い、基礎的な力を伸ばすと共に、自分の思いや考えをもてるよう支援する。興味・関心をもとに、学習の方法を工夫して、支援する。  
 【1・2学年】  
 ・体験を通して、幼稚園保育園での経験を活かし、自分の思いや気付いたことを伝えることができるようにする。  
 ・周囲のものに興味をもち、進んで自分からはたきかけられるようにする。  
 ・体験を通して自分の考えを話したり書いたり、相手の思いを受け止めて聞けるようにする。  
 ・地域の方や他学年とかわる場を設けることで、人や場所への愛着を高められるように指導する。  
 【3・4学年】  
 ・自分が伝えたいことを明確に伝えるために考えて話そうとしている。  
 ・既習の学習事項や自らの経験などを生かして、自分で考え課題解決に向けていろいろ試している。  
 ・自分の目の前にある課題を解決するために、自分で考えた方法を試そうとしている。  
 ・対話の時間を設けることで、自分の考えを明確にし、相手の意図や目的に応じて表現できるようにする。  
 【5・6学年】  
 ・友達のことを自分の考えと比べながら聞き、考えを深められるようにする。  
 ・資料を効果的に活用し、考える力、調べる力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようとする。  
 ・様々な事象を広い視野で見たり、推論したりしながら、問題解決のために追究する学びを大切にす。  
 ・友達の考えを聴くことにより、自分の考えを深め、自分の成長を意欲できるような活動を取り入れる。

【個別支援級】  
 ・個に応じた学習や小グループでの学習を行い、基礎的な力を伸ばすと共に、思いや考えを自分なりの方法で表現できるよう支援する。興味・関心をもとに、学習の方法を工夫して、支援する。  
 【1・2学年】  
 ・体験を通して、自分の思いや考えたことを相手に伝えたり、相手の思いを受け止められたりできるようにする。  
 ・身近な大人やものとの関わり、自分がやってみたいことを見つけたり。  
 ・相手の思いや考えを受け止めて、相手を理解しようとする態度を育てる。  
 ・地域の方や他学年に進んで関わり、その中で自分がやってみたいことを見つけ、実際にやってみる。  
 【3・4学年】  
 ・伝えたいことが明確になるよう、思考するための言葉の習得を図る。  
 ・課題解決に向け、自分で考えた方法を進んで試している。  
 ・自分から課題を見つけ、その解決に向けていろいろな方法を試してみる。  
 ・自分の考えを明確にするため、自分で言葉を選び、相手の意図や目的に応じて自分の考えを伝えている。  
 【5・6学年】  
 ・友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、考えを深めさらに考えたことを表現する。  
 ・資料を効果的に活用し調べたことをもとに、自分で考えたことを友達に提案する。  
 ・伝え合うことで自分の考えを深め、新たに考えたことを提案していけるようにする。  
 ・問題解決の過程を振り返り、次に生かそうなどについて考える。

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①どの子どもにも自己肯定感と思いやりの心、規範意識を高めていく。 ②道徳科の学びを充実させ、様々な価値観を互いに理解し合ったり、受け入れたりすることの大切さを感じ取ることができるようにする。 ③新しい生活様式のもの、相手意識をもって関わることの大切さを感じ取ることができるようにする。
担当	豊かな心部会

#### 豊かな心に関わる本校の状況

学校生活は落ち着きがあり、基本的な生活習慣が身につけている児童が多い。  
 自己肯定感については、これまでのアンケート結果から見ると高くはない。学習の理解度は高い方であるにも関わらず、自分に対して自信がもてていないという実態がある。そこで、子どもたち一人ひとりが、自信をもって自分の良さを表出したり発揮したりしていけるように、支援を重ねていくことが大切であると考える。  
 また、新型コロナウイルス予防のため、外部との関わりをもちにくく、友達のかかわりも希薄になる傾向にあるため、工夫を講じながら体験学習や異学年交流等の充実を目指す。

#### 今年度の目標

①「豊かな心の育成推進プラン」をもとに、自己肯定感と思いやりの心、規範意識を高めていく教育活動を継続的に推進する。  
 ②道徳科の授業を基盤に全ての教育活動において、多様な価値観を認め合うことを大切に指導を継続的に行うことで、子どもたち一人ひとりが多様性を認め合える素地を培う。  
 ③異学年交流を充実させ、相手意識を大切にしたり関わりを通して、相手の気持ちを理解しようとする心性を育てる。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

【年間を通した児童理解】  
 ・毎月実施する児童理解研修及び学校生活アンケートなどを通して児童理解に努め、一人ひとりの自己肯定感を高めていけるよう支援にあたる。  
 【道徳科を要した学校の教育活動全体を通じた道徳教育】  
 ・各学年(学級)で、学校行事や各学習と道徳の指導計画との関連を見直し、年間を通して落ちなく効果的に道徳の学習を展開していけるようにする。  
 【異学年交流の充実】  
 ・低学年は「上級生に対して礼儀を大切に」、高学年は「自分も相手も楽しめるような計画を立て、優しく関わる」ことを大切にしよう。児童にしっかりと指導をすることを通して、望ましい関わりができるようにする。  
 上記に示したこと及び教育活動全体を通して、子どもたちに自己有用感・自己肯定感を育むと共に、相手の気持ちを理解しようとする心性を育てる。

【人権教育】  
 ・毎月実施する児童理解研修及び学校生活アンケート、いじめ防止アンケートなどを通して児童理解に努め、一人ひとりの自己肯定感を高めていけるよう支援にあたる。  
 ・人権週間では、学年ごとに系統立てて、外部講師を招いたり、体験的な活動を取り入れたりするなど、身近なことから人権感覚の涵養につながるようとする。  
 【道徳科を要した学校の教育活動全体を通じた道徳教育】  
 ・各学年の指導配列表や指導資料などを着実に残していくことを通して、どの担任も安心して道徳の授業を進めていけるようにする。  
 【異学年交流の充実】  
 ・ペア活動を充実させるとともに、異学年との交流を深める集会を行うなど、豊かな関わりをつくり出し、学級集団だけではなく異学年同士のつながりを築くようにする。  
 上記に示したこと及び教育活動全体を通して、子どもたちに自己有用感・自己肯定感を育むと共に、相手の気持ちを理解しようとする心性を育てる。

### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①心身共に健康的な体づくり、生活習慣向上に取り組む。 ②鶴見川を走ろう会、運動会などの体育的行事や集会等を通して、健康でたくましい体をつくる。 ③保健指導、食育を教科に関連して位置づけ、担任と養護教諭、栄養職員との連携で推進する。
担当	健やかな体部会

#### 健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態

体力調査チャートを見ると、運動能力において、令和3年度の結果が令和元年度の結果を下回っていることが分かる。これはコロナ禍での生活様式の変化や学校生活の様々な場面に制限がかけられたことによるものと考えられる。運動についても制限がかけられ、運動機会の減少や体を動かす児童とそうでない児童の二極化に拍車をかけることとなった。体育の授業時間はもろろんのこと体育的行事に一層注力し、状況をよく把握したうえで、実施の仕方をよく考え、運動の機会を取り戻したり、増やしたりすることができるよう、工夫していきたい。また、全体としては、生活状況調査の値も低下している。規則正しい生活ができるよう保健学習や保健活動の充実も同時に行う必要がある。

#### 今年度の目標

学校教育全体を通じて、健康についての正しい知識を身につけ、資質・能力及び生きる力の基盤となる実践力や体力の育成を図る。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

【体育科・保健体育科での取り組み】  
 ・遊びや運動経験が少ないという実態から、6年間の体育学習を通して、様々な運動(動き)を低学年から経験し、運動の楽しさを味わったり動きの特性を身につけたりする。  
 ・保健の学習を通して、健康的な体をつくるための基本的な生活習慣について学習する。  
 【特別活動での取り組み】  
 ・運動会に向けて、友達との関わりを大切にしながら活動し、その過程で培った資質・能力をその後の活動に発展させていく。  
 ・学校保健委員会では、児童の健康面での課題を把握し、児童が主体的に取り組めるようなテーマを設定して活動を行う。  
 【体力向上1校1実践運動】  
 ・運動委員会の児童を中心として、運動集会や運動機会確保のための取り組みを行い、体力向上を目指す。  
 【体育的行事】  
 ・「鶴見川を走ろう会」では、一定の距離を継続して走る運動を通して、自分の力を知り、継続して運動に親しもうとする態度を育てる。  
 ・運動会では、体育学習を基盤とした発展的な内容の演技・競技を通して、運動の楽しさや仲間とともに運動する喜びを味わえるようにする。  
 【集会】  
 ・長縄集会や体力アップ週間を計画し、運動を日常生活の中に取り入れ、全校での体力向上を目指す。  
 ・目の集会を行い、自身の健康についての正しい知識を身につけ、健康で安全な生活を送るための基礎的実践力を育成する。  
 【食育】  
 ・各学年で、学校行事や他教科と関連させた指導計画をもとに、食育の授業を実践する。